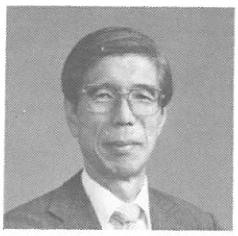


未来を目ざして ますますの発展を

初代学校長　巽　　三　郎

創立五周年記念は現職の校長で迎えました。この文を書くに当って、五周年にはどんな事を書いたのか知りたくて当時の記念誌をとり出してみました。その中で述べている校長としての挨拶は、生徒諸君には何の関係もない、府の教育委員会に対しての言葉や地域社会あるいはＰＴＡに対する言葉などで埋まっていました。いま職を離れて五年、自由な立場でものが言える現在、私は在校生の諸君に向って語りかける言葉で与えられた紙面を汚したいと思います。

家に配られてくる学習塾のチラシの中に、某有名高校に何十名、某進学校に何十名合格という宣伝文句が毎回のように載っています。そして幸か不幸かその中に本校の名前が見つかりません。誰が一体何の基準で一流校二流校の格付けをしたのでしょうか。一流校と称する学校に進学した生徒は、果たしてそれほど人間的にすぐれて立派なのでしょうか。このチラシを見る毎に私は激しい怒りと憤りで胸が痛むのです。

地下鉄のある駅の階段を上っていると、後から来た若い女性が、「先生じゃありませんか」と言葉をかけてくれました。聞けば柏原東の卒業生で、現在ある病院の看護婦として働いているそうです。また、ある百貨店で手洗いの場所を女店員さんに尋ねたところ、「御案内しましょう」とわざわざ私を手洗いの前まで連れて行ってくれて、「私、柏原東の出身です。お変りになりませんね」といってにっこり微笑んでくれました。またある時、近鉄電車の中で居眠りをして、終着駅の高安でまだ気がつかずに寝ていました。近づいて来た車掌さんが「もしもし、終点ですよ。降りて下さい」といって私を起こしてからしばらく私を見つめて、「あっ、先生ではありませんか、私、柏原東で御世話になりました」といって肩を抱くようにして降ろしてくれました。こんなに人間的にすばらしい諸君の先輩が社会に出て、みんな立派に職責を果たしているのです。

人間を育てるという事は有名大学に多数の生徒を合格させることではありません。心の暖かい誠実な人間を作り上げることこそが人間を育てる本当の意味だと思うのです。どうか在校生の諸君は、胸を張って柏原東に学ぶことに誇りをもち、すばらしい先輩に続いて心暖かい、誠実な社会人として巣立って頂きたいと思います。

柏原東高校のあす

二代学校長　石　香　　亨

昭和61年６月12日の読売新聞の「編集手帳」によると、アメリカでの留学を終えて帰国した新島襄は明治８年に「京都御苑」近くの借家で教員二人、生徒八人で「同志社英学校」を開く。初代社長の襄に、勝海舟らが問うている。

「同志社は幾年を期して成らしめんと欲せらる

るや」。答えて言う。「これ神の御業なり。先づ二百年の後を期さざるをえざるべし」と。
二世紀をかけた大学づくりの構想に、海舟は襄への信頼をさらに厚くした。とある。柏原東高校創立されて未だやっと十年を経過したにすぎない。

記念誌の原稿依頼をうけたのは4月中旬、「あらとうと青葉若葉の日のひかり」と滴るような新緑の美しさに法悦のようなものを感じている頃であった。この時最初に脳裏をかすめたのは、校長室の窓からの芝山の姿であった。教育条件の第一である自然環境は正に絶佳である。

教育条件の第二は教師の質である。柏原東高校の先生方は正に「俊秀」と呼ぶにふさわしい教師の集団である。この人たちが寝食を忘れて生徒指導にあたっている姿は涙ぐましいまでのものを感じさす。午後4時頃に昼食をとっている先生も数多く見た。深夜2時頃家庭訪問先から私の宅へ電話してきた先生もあった。私は校長としてこのような熱意あふれる先生方を部下に持てたことは無上の幸福であったと感謝にたえないと同時にこれに何も報いることが出来なかったことを申し訳なく思っている。

この先生方の教育活動を支えるＰＴＡの存在も忘れてはならない。炎天下生徒指導部の先生と一緒に喫茶店をまわって生徒指導に協力して下さる府立高校のＰＴＡが他にあるとは聞いたことはない。以上のようなことを生徒諸君がよく考えてくれたならば柏原東高校の前途は200年を待つまでもなく、20年後には目を見はるような発展を遂げるものと期待したい。

明日をめざせ

初代ＰＴＡ会長　石　川　修　一

創立十周年を迎える年となり、まことにおめでとうございます。

改めて十年をふりかえり思案いたしました時に創立以来数々のご苦労を下された先生方始め、ご父兄のご協力に御礼を申し上げる次第です。学校も整備され、正常な運営がなされ、環境にも申し分のない、河内嵐山と詩われた大和川、芝山を眺めて高校生活を送る生徒達は幸せ者としか言いようのない感がいたします。

私も初代ＰＴＡ会長の指名を受け、基礎作りの仕事の一端をさせて頂きました。当時副会長の小林氏、山口氏、他役員の皆様のお力添えを頂き、備品、運動用具及び、通学道路、路線バス、国分駅改札口、高井田駅設置等、右を見ても左を見ても、数々の御願いに出向いて行く仕事が限りなくありました。二年、三年、五年と年月がすぎ、十年を迎える今日、全てが完了されたように思われます。

一方生徒諸君が、大和川の橋を渡る姿をみては、今日一日が本当に意義ある一日であったのだろうか、入学当初の緊張感も日一日と月日とともにうすれ、自分の勝手都合の良い行動「見たい」「知りたい」動きへと歩んではいないだろうかと心配になります。判断力、自制心をしっかり養って心身共にたくましくし、又十年先をみつめて、与えられた体力、能力を生かし、誤りのないグループ活動、人間関係を築き、学校の歴史を築き上げて頂き度く思います。

校庭の植木も年とともに太く大きく育っています。世情も変りつつある中、柏原東高校も十年を一節として、次の十年をめざして苦労と努力をすることが、十周年を迎える意義であろうと思います。学校職員、生徒諸君、ＯＢ、父兄一同が力を合せて、更によりよき柏原東高校へと発展されることを、熱望いたします。

内容の充実発展を

初代教頭　細　木　孝　雄
（現泉陽高校　校長）

第109高校として発足した柏原東高校が、年々充実発展を遂げ、多数の有為な卒業生を送り出し、はや創立10周年を迎えられることに対しまして、その創設の時に参加させて頂いた一人として、本当に嬉しく思うとともに、心からお祝いを申し上げたいと思います。また、これまで柏原東高校を育んで来られた先生方や生徒諸君、ＰＴＡ、同窓会の方々や関係各方面の皆様方のご努力、ご支援、ご協力に対しましても、深く敬意を表したいと思います。

かえりみますと、昭和51年当時、私は府教育委員会の高校等設立準備室に勤務しておりまして、52年にできる新設６校の準備に当っておりましたが、突然10月１日にその中の本校へ行けということで、教頭の兼務辞令が出たわけです。

それから、52年４月開校までの間、巽校長先生の構想を中心に色々とご指示をあおぎながら、他の兼務辞令の出た先生方と共に、教育方針、校章、制服、校務分掌、校時表、各種規定等と必死で開校準備を進めました。そして、２月末頃に、開校準備場所であった八尾東高校から、いよいよ現在の地へ移り、３月１日からの入学願書の受付けに備えたものでした。また、入学式は、体育館もなく、現在の校舎の東側３分の１の部分が完成しているだけの、山の斜面を削って建てた荒涼殺伐たる風景の中の運動場で、４月８日に行われたのでした。

それから、淡路島の国立青年の家での宿泊研修、補習授業、体育大会、文化祭、体育館落成記念式、プール開き、校歌・校旗の制定等、数え上げればきりがありませんが、先生方のご協力により、54年12月末、生野高校への転勤まで目まぐるしかったが、充実した日々が続きました。この３年間の経験が、56年開校の門真南高校校長としての４年間の新設校作りに大いに役立ったことは申すまでもありません。改めて、厚く御礼を申し上げたいと思います。

創立の頃、国鉄の駅が近くにできると聞いてはいましたが、当時は近鉄の国分駅から大和川沿いの道しかなく、しかも、最後は極めて勾配のきつい地獄坂で、大変不便な所だなあ、しかし、教育環境としては、頼山陽が、河内の嵐山と言ったとかの風光明媚の地で、抜群だなあ、との印象を持ったことを今でもはっきりと覚えています。

10年を経た現在は、国分駅付近の大改造、待望の国鉄の高井田駅の新設、修徳学院下の線路北側の道路の開通、西側の谷間が埋立てられ住宅地への変革、学校内にも沢山の樹木が育ち、落ち着いた環境となり、全く驚くばかりです。

このおめでたい創立10周年を契機として、今後ますます学校の内容が充実発展し、いっそう素晴らしい、誇高い学校に成長されますよう心から念願いたしております。

十年ひとむかし

二代教頭　末　川　　衛
（現枚方高校　津田校長）

「十年ひとむかし」とは余りにも月並みな所感ですが、今のわたしにとってこの言葉ほど、しみじみとした感慨をもって迫ってくる言葉はありません。地域こそ違え同じ大阪府下の枚方において、再び一からの学校づくりを付託されちょうど十年前の柏原東高校開校当時の一日一日を克明に思い出しては、それをなぞっているからなのです。勿論当時と今とでは歳月の隔りもあり、社会の変化などもあって、何もかもがそっくりとはいかないまでも、初年度３分の１しかない校舎やスタッフ、日々追われる運営規定の整備など、柏原東高校での貴重な体験が欠くことの出来ない下敷となっています。

一期生の諸君に、なかば願いも込めて口癖のように言ってきたことがあります。「君達は、体育館もなければプールもない。先輩もいなければ伝統もない。ないないづくしの中からスタートした。しかしこの学校の誇れるものが一つある。それは先生と生徒が一致協力して立派な学校をつくっていこう。後輩に恥じない伝統を築いていこう ― というひたむきな気持ちだ。君達が卒業して何年か先、その時々の友人に、あれがわたしの母校ですと胸を張って言える学校にしていこうではないか」と。厳しい条件のもとで精一杯の頑張りを示した卒業生諸君が、今は社会に出てそれぞれ立派に責務を果たしていることを聞くにつけ喜ばしい限りです。しかし柏原東高校の現状を仄聞するにつけ、まだまだ初期に目指した目標とは隔りがあるようです。今後とも一丸となって、地域に根ざしたゆるぎない学校に育っていくよう願って止みません。

今年また同じ願いと意気込みで、同じ言葉を口にしています。乏しい施設の中にいて、日々進められる建設の槌音を聞きながら、かつての柏原東高校開校当時のことをふり返っています。「十年ひとむかし」これはわたしの実感です。

あらたなる飛躍をめざして

現教頭　佐　野　　宏

柏原市東部、眼下に大和川を眺める緑豊かな景勝の地に、昭和52年開設された本校も今度10周年を迎えることになりました。地元柏原市をはじめ各方面から期待されて誕生した柏原東高校はこれを機に“新設校”から“中堅校”へと脱皮し、あらたな飛躍への節目としなければならないと思います。幸い、昨年夏国鉄「高井田駅」が関係各位のご尽力で開設され、本校生徒に通学の足が確保されたことは、10周年を迎えた本校へのなによりの贈物であり、本校の発展に大きく寄与するものと考えております。

ご承知のとおり、近年国民教育機関として位置づけされてまいりました高等学校は、生徒の興味や関心も多様化し、学校生活全般にわたっていろいろな問題が派生しております。このような中で本校も解決しなければならない多くの

課題を抱えておりますが、学校長を中心に、一人一人の生徒を生かす教育活動を展開し得るよう教育計画を作成し、家庭・地域社会とも連携をはかりながら教育活動を推進してまいりました。その結果、卒業生の約70％を占める就職希望者の就職決定状況は毎年極めて好調であるなど、具体的な成果も現われております。

次に、国際化社会や情報化社会の到来などと相まって、生涯学習化時代に適応できる教育体制を早急に確立することも学校教育の今日的課題であると考えております。そうした意味におきましても、本校が地域の皆様から親しまれ、愛される、魅力ある高等学校として育くんでいただきますようにと念じております。

終わりに、本校創立以来の先輩諸先生のご尽力に心から感謝いたしますと共に、今後共本校発展の為にご指導賜わりますようお願い申し上げまして筆を措きます。

社会での大いなる活躍を

平　工　四　郎
（現伯太高校　校長）

創立10周年を迎えられ、心からお祝い申し上げます。

私は創立２年目の昭和53年に赴任し、４年間勤めました。転勤と決まり、始めて学校を訪問した時、なんと山奥で遠いな、私自身も通勤はしんどくなるが、生徒諸君は毎日通学がたいへんだろうな、というのが実感でした。その時は校舎はやっと完成したところでしたが、体育館は基礎工事の真最中であり、自分も学校を造る一員になる気負いのようなものを感じました。

教室からは眼下に大和川の流れが見え、西の方には河内平野を鳥瞰し、校舎は緑に囲まれ、さらに古墳があたりに散在している。これほど環境に恵まれた学校は他の府立高校にはないだろうと思いました。

最初は２期生の学年主任として他の先生方とがむしゃらに頑張りました。頑張ったというよりは、他の先生方の迫力があって、しかもきめ細かい指導ぶりに圧倒される思いであり、その上若い先生方の真面目でエネルギッシュな指導に感心しながら毎日を過ごしたというのが実情です。「人は石垣、人は城」と歌の文句にありますが、柏原東は本当に人材に恵まれ、皆協力しあって学校づくりに努力しました。この人材集めには巽初代校長先生、細木教頭先生はかなり苦労されたことと思います。

卒業生諸君の中でも最初は東側のあの急な坂道を登下校し、さらに体育の授業でも校舎内外の坂を走り廻り、ひょっとしたら学校での思い出はと聞かれたら地獄坂と答える人が多いかもしれません。身体だけでなく、精神も３年間で鍛えられたことと思います。苦しい思い出は時とともに風化し、楽しい思い出に変化しているでしょう。強靱になった身体と精神で社会で大いに活躍されることを期待しています。

最後に柏原東はこの10年の節目を機にさらに一層発展されるようお祈り致します。

羽ばたけ柏原東
——在校生諸君へ——

大　西　康　雄
（現高津高校　教頭）

創立10周年おめでとうございます。

初代巽校長先生のお誘いを頂いて、私が初めて柏原東を訪れましたのは、52年の秋10月のことでした。職員室の雰囲気は活気がみなぎり、当時１年生だけの生徒諸君も生き生きとして、これこそ高等学校だという感を強く受けました。「いい学校ですよ。」と言われた校長先生のお言葉どおりでした。

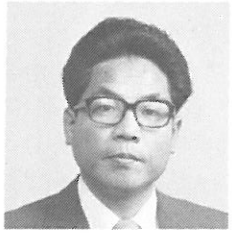
そして、53年４月、青春の気みなぎる潑剌とした１期・２期の生徒諸君とともに始業式に臨みました。その当時、高校生の間にはびこっていた「三無主義」や「ぬるま湯につかる」といった風潮は、ここでは無縁の存在で、先生方はもちろん、生徒諸君も一生懸命に励んでいました。

しかし、年を経るに従って、その青春の歌声が小さくしぼんできたのを、残念ながら否定することができません。施設・設備が整い、先生方の陣容が整うにつれて、生徒諸君に甘えの気持ちがつのり、自立心や自律心が、やや欠けてきたのではないかと思われるようになってきました。

柏原東も10年という一つの節目を迎え、いよいよ未来に大きく羽ばたく時節がやって参りました。この美しい自然に囲まれたすばらしい環境、設備の整った校舎、熱意あふれる先生方、そして何よりも、素直で純心な多くの可能性を秘めた生徒諸君によって築かれている柏原東が躍進しないわけがありません。

離任式の折にも申しましたが、いつまでも「やればできる」のだという幻影に甘えず、何事も「やらなければできない」のだという厳しい心で、一歩一歩着実に進んで下さい。

柏原東の限りなき発展を心からお祈りしています。



育てよう柏原東

芝　口　達　也
（現大阪府企画部教育課主幹）

創立10周年を心からお祝い申し上げます。

私は、開校と同時に本校に勤めましたが、当時のことがまだ手に取るようにしのばれてきます。運動場に整列して第一期生の入学式を挙行したこと、淡路青年の家での宿泊研修、毎日のように開かれる放課後の会議、新しい学校づくりに全員が一丸となって情熱を注いでいたようすは、今思い浮べるだけでも胸が熱くなってまいります。

一口に10年と申しましても、その歩みの中には様々な出来事、喜びも苦しみもいっぱいございましょう。多くの先生方は、教員生活の第一歩を本校からなさっておられますが、私のように何校か経験してまいった者にとって、柏原東の生活は、生涯忘れることのできない新鮮なも

のでした。

特に生徒指導の仕事をさせていただいた3年間は、毎日が緊張の連続でしたが、今思い返しますと、生徒達にとってかけがえのない人間模様の中で共に生きることのできた貴重な日々であったと思われます。今、あの時の日々にもどることができたなら、退くよりも、もっと前へもっと深く心に食いついていくこともできたのに、と過ぎ去った日のことを惜しんでおります。

柏原東での6年間、真実、善い先生、懐かしい生徒とめぐりあえたことを感謝いたしております。本校の後々を受け継いでいかれる先生方、本校に学んでいる生徒諸君、柏原東をこよなく愛する気持ちで育てていっていただくように、陰ながら祈っております。

柏東は 私の青春そのものです

伊　藤　正　美（二期生）

創立十周年、おめでとうございます。早いもので、新設高校といわれ、ペンキの香りが漂っていた、柏東も十年の歴史を積み重ねたのですね。あの地獄坂を毎日通った日は、まるで昨日の様なのに…と言うと少し厚かましいですか？

悲しいことがあると開く皮の表紙
卒業写真のあの人は優しい目をしてる
町で見かけた時、何も言えなかった
卒業写真の面影がそのままだったから
人ごみに流されて変っていく私を
あなたは時々、遠くで叱って
あなたは、私の青春そのもの

私も、仕事で失敗した時や、落ち込んだ時に卒業アルバムを開きます。一ページ開くごとに懐かしさが、込み上げてきます。勉強はさて置き、クラブ活動、文化祭、体育祭と一生懸命でした。柏東での、すべてが私の青春でした。「あの頃、あんなに頑張ったじゃないか」と思うと、何だか勇気が沸いてくるのです。そしてもう一つ私を勇気づけてくれるのは、高校時代の先生、友人達です。

母校の良さ、先生方のありがたさは、卒業してから、つくづく思うものです。大学へ行っても、社会へ出ても、高校時代の様に色々と細かく、叱られたり、注意を受けたりすることはありません。それは、楽な様で実は、とても大変で淋しいことだと知りました。柏東の先生方、私達の可愛い後輩をどんどん叱って下さい。

そして、可愛い後輩達には、三つのお願いがあります。一つは、高校時代にしか出来ない事をして、高校時代を謳歌してほしいこと、二つめは、今の友人を大切にしてほしいこと、そして最後は、私達の大切な母校、いずれは、あなた達の母校になる、柏東に、すばらしい歴史を重ねてほしいということです。私達、先輩も応援しています。

沿革の概要

通学路　昭和55年開通

昭和51年４月15日　府議会において大阪府立第109高等学校（仮称）設立のための建設予算議決　大阪府教育委員会事務局高等学校等設立準備室において開校準備事務の開始

５月11日　第１期工事請負契約の締結

６月９日　第１期工事着工（創立記念日）

12月17日　大阪府立柏原東高等学校として設置条例の議決

昭和52年１月１日　設置条例の施行に基づき巽　三郎（初代）校長就任

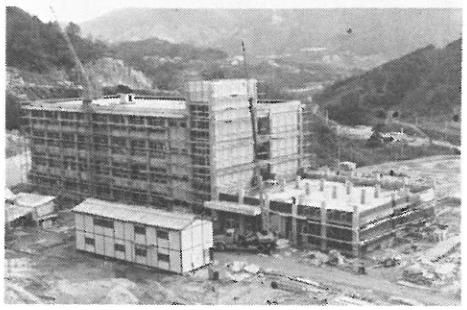
１月７日～２月25日　柏原東高等学校開校準備室を大阪府立八尾東高等学校に設置

２月26日　現在地へ移転

２月28日　第１期工事竣工

４月１日　大阪府立柏原東高等学校　全日制　普通課程　開校
教職員　35名
１期生　552名（12学級）入学

４月８日　第１回入学式挙行
大阪府立柏原東高等学校ＰＴＡ設立



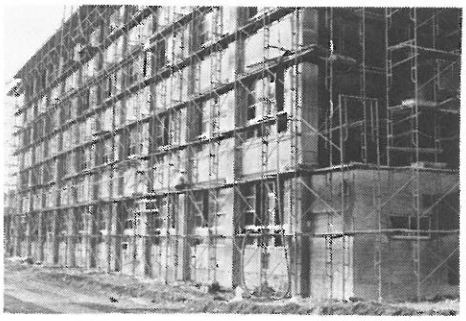
昭和53年２月28日　第２期工事竣工

４月１日　２期生　564名（12学級）入学

６月30日　プール工事竣工

10月31日　体育館工事竣工

11月11日　体育館落成記念式典挙行
校歌制定及び発表会



昭和54年２月28日　第３期工事竣工

３月15日　校舎北側斜面防護工事竣工

４月１日　３期生　517名（11学級）入学

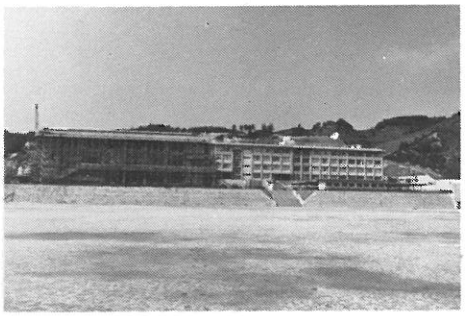
昭和55年２月25日　第１回卒業式挙行

４月１日　４期生　517名（11学級）入学

５月31日　第４期工事竣工

昭和55年 9 月12日　通学路(柏原市道)完成
　　9 月22日　通学路開通式挙行

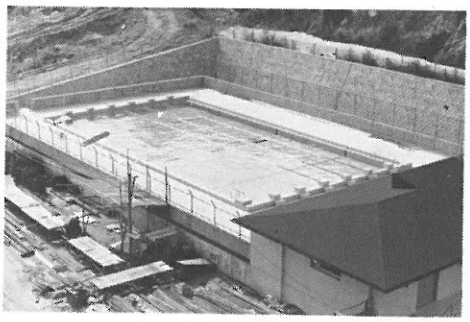
昭和56年 2 月24日　第 2 回卒業式挙行
　　4 月 1 日　5 期生　517 名(11学級)入学
　　11月 7 日　五周年記念式典挙行



昭和57年 2 月24日　第 3 回卒業式挙行
　　4 月 1 日　石香　亨(2 代)校長就任
　　6 期生　423名(9 学級)入学

昭和58年 2 月24日　第 4 回卒業式挙行
　　4 月 1 日　7 期生　564 名(12学級)入学

昭和59年 2 月24日　第 5 回卒業式挙行
　　4 月 1 日　8 期生　564 名(12学級)入学



昭和60年 2 月24日　第 6 回卒業式挙行
　　4 月 1 日　玉井庄平(3 代)校長就任
　　9 期生　564 名(12学級)入学

昭和61年 2 月25日　第 7 回卒業式挙行
　　4 月 1 日　10期生　575 名(12学級)入学
　　11月 8 日　十周年記念式典挙行

日　本　庭　園

西　洋　庭　園